

平成30年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年7月28日

上場会社名 日本ライフライン株式会社

上場取引所 東

コード番号 7575 URL <http://www.jll.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 鈴木 啓介

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 高橋 省悟

四半期報告書提出予定日 平成29年8月10日

TEL 03-6711-5200

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	10,228	14.9	2,620	50.2	2,626	53.6	1,834	53.5
29年3月期第1四半期	8,905	32.0	1,744	169.6	1,710	173.8	1,194	22.0

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 1,858百万円 (52.0%) 29年3月期第1四半期 1,222百万円 (29.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	49.30	
29年3月期第1四半期	32.12	

(注) 当社は、平成28年12月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第1四半期	39,487	21,492	54.4
29年3月期	40,427	20,750	51.3

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 21,492百万円 29年3月期 20,750百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		0.00		30.00	30.00
30年3月期					
30年3月期(予想)		0.00		37.50	37.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	19,608	9.7	3,897	14.0	3,959	15.9	2,725	14.9	73.25
通期	41,828	12.5	9,472	23.3	9,604	19.9	6,684	24.9	179.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
除外 1社 (社名)JUNKEN MEDICAL株式会社
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期1Q	45,209,988 株	29年3月期	45,209,988 株
期末自己株式数	30年3月期1Q	8,002,808 株	29年3月期	8,002,808 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期1Q	37,207,180 株	29年3月期1Q	37,207,180 株

(注) 当社は、平成28年12月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に株式分割が行われたと仮定し、「(4)発行済株式数(普通株式)」に記載の株式数を算定しております。

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
3. 四半期連結財務諸表び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
4. その他	10
生産、受注及び販売の状況	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(売上高について)

当第1四半期連結累計期間の販売実績といたしましては、リズムデバイスにおきまして、昨年3月に導入したMRI（磁気共鳴画像）検査に対応した心臓ペースメーカが伸びました。また、EP/アブレーションにおきましては、心房細動のアブレーション治療の症例数が引き続き高い伸びを示していることを背景として、オンリーワン製品をはじめとする心房細動治療の関連商品が伸びました。

また、外科関連におきましては、昨年1月に新規参入した腹部用ステントグラフトのほか、オンリーワン製品であるオープンステントグラフトが好調に推移し、売上増に寄与いたしました。

以上により、当第1四半期連結累計期間の売上高は102億2千8百万円（前年同期比14.9%増）となりました。

品目別の販売状況は以下のとおりです。

<品目別売上高>

(単位：百万円)

区分	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	増減率
リズムデバイス	1,564	1,821	16.4%
EP/アブレーション	4,349	5,083	16.9%
外科関連	2,327	2,601	11.8%
インターベンション	664	721	8.6%
合計	8,905	10,228	14.9%

※前連結会計年度末まで連結子会社でありましたJUNKEN MEDICAL株式会社が取り扱っていた血液浄化装置等は前連結会計年度まで「その他」の区分で集計しておりましたが、平成29年4月1日付で同社を当社が吸収合併したことにより、区分の見直しを行い、当連結会計年度より「外科関連」の区分で集計しております。

これに伴い、比較可能性を確保する観点から、前第1四半期連結累計期間についても組み替えて記載しております。

※各品目区分に分類される主たる商品は以下のとおりです。

リズムデバイス	心臓ペースメーカ、ICD（植込み型除細動器）、CRT-D（除細動機能付き両心室ペースメーカ）
EP/アブレーション	EP（電気生理用）カテーテル、アブレーションカテーテル、心腔内除細動カテーテル、食道温モニタリングカテーテル、高周波心房中隔穿刺針
外科関連	人工血管、オープンステントグラフト、ステントグラフト、人工心臓弁、人工弁輪、血液浄化関連商品
インターベンション	バルーンカテーテル、ガイドワイヤー、貫通用カテーテル、心房中隔欠損閉鎖器具

(リズムデバイス)

心臓ペースメーカにおきましては、昨年3月より販売を開始した条件付きMRI（磁気共鳴画像）検査対応ペースメーカ「KORA250（コーラ250）」の販売数量が増加いたしました。「KORA250」は胸部を含むMRI撮像が可能であることに加え、世界最小クラスの本体サイズや電池寿命が長いという特長により高く評価されております。さらに、本年6月よりMRI対応のペースメーカリード「VEGA（ベガ）」の販売を開始したことから、ペースメーカの販売数量のさらなる増加に取り組んでまいります。

ICD関連におきましては、小型であり長寿命な新商品「PLATINIUM（プラチニウム）」シリーズの拡販に努めているものの、競合他社が販売するMRI対応商品の影響により、前年同期に比べ販売数量が減少いたしました。

以上により、リズムデバイスの売上高は、18億2千1百万円（前年同期比16.4%増）となりました。

(EP/アブレーション)

EPカテーテルにおきましては、心房細動のアブレーション治療の症例数が引き続き増加しており、当社のオンリー

一ワン製品である心腔内除細動システム専用カテーテル「BeeAT（ビート）」のほか、仕入商品であり国内では当社のみが販売している高周波心房中隔穿刺針「RFニードル」等の販売数量が、前年同期に比べ増加いたしました。

また、アブレーションカテーテルにおきましては、イリゲーション機能付きの製品の本格的な市場導入が進んでいないことから、販売数量は減少いたしました。なお、治療用の商品につきましては、内視鏡画像を確認しながらレーザーを用いて正確に焼灼することが可能な、内視鏡アブレーションシステム「HeartLight（ハートライト）」の第4四半期の上市を目指し、導入準備を進めてまいります。

以上により、EP/アブレーションの売上高は、50億8千3百万円（前年同期比16.9%増）となりました。

（外科関連）

人工血管関連におきましては、当社のオンリーワン製品であるオープンステントグラフト「J-Graft FROZENIX（ジェイ・グラフト・フローゼニクス）」が、開胸手術を伴う胸部大動脈治療の低侵襲化に寄与する製品として、医療現場に広く受け入れられており、販売数量は前年同期に比べ増加いたしました。また、経皮的な治療に用いるステントグラフトにつきましては、昨年1月に「AFXステントグラフトシステム」の販売開始により新たに参入した、腹部用ステントグラフトの販売数量が増加いたしました。

人工弁関連におきましては、心臓弁膜症治療においてTAVI（経カテーテル大動脈弁留置術）の普及が進んでいることから、当社が扱う生体弁「CROWN PRT（クラウン・PRT）」の販売は前年同期水準に留まりました。なお、当社におきましては、縫合が不要な新しいタイプの生体弁「PERCEVAL（パーシバル）」の第4四半期の上市を予定していることから、早期の普及に努めてまいります。

以上により、外科関連の売上高は26億1百万円（前年同期比11.8%増）となりました。

（インターベンション）

バルーンカテーテルにつきましては、冠動脈用のバルーンカテーテルが堅調に推移いたしました。また本年6月より、当社としては初めての取り扱いとなる末梢用バルーンカテーテル「Mastuly（マストリー）」の販売を開始いたしました。同製品は、病変部の通過性と優れた操作性により、既に医療現場で高い評価を得ており、今後の拡販を通じて末梢領域の開拓を図ってまいります。

その他の品目におきましては、冠動脈の狭窄部における治療機器の通過をサポートし、手技の効率化を可能とする貫通用カテーテル「Guideliner（ガイドライナー）」や、昨年2月より販売を開始した心房中隔欠損閉鎖器具「Figulla Flex II（フィギュラ・フレックスII）」が伸長いたしました。

さらにインターベンション領域におきましては、冠動脈疾患の主要な治療機器である薬剤溶出型冠動脈ステント「Orsiro（オシロ）」の第4四半期の上市に向け準備を進めてまいります。

以上により、インターベンションの売上高は、7億2千1百万円（前年同期比8.6%増）となりました。

（損益について）

①営業利益

仕入商品および自社製品ともに、収益性の高い品目の販売が伸長していることに加え、本年4月1日付で連結子会社を吸収合併したことに伴う未実現利益の調整などにより、売上総利益率が前年同期に比べ3.8ポイント改善いたしました。販売費及び一般管理費におきましては、旅費交通費等が前年同期に比べ増加したものの、開発関連の費用や広告宣伝費等の経費予算の執行が遅れていること等により、当第1四半期連結累計期間の営業利益は26億2千万円（前年同期比50.2%増）となりました。

②経常利益

受取利息をはじめとする営業外収益を5千5百万円、支払利息等を営業外費用として4千8百万円計上したことから、当第1四半期連結累計期間の経常利益は26億2千6百万円（前年同期比53.6%増）となりました。

③親会社株主に帰属する四半期純利益

投資有価証券売却損を特別損失として3百万円計上したこと等により、当第1四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純利益は18億3千4百万円（前年同期比53.5%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(連結貸借対照表に関する分析)

①資産

当第1四半期連結会計期間末の資産につきましては、流動資産が前連結会計年度末に比べ20億1千8百万円減少し、270億7百万円となりました。これは主として、現金及び預金が28億9千5百万円減少した一方で、たな卸資産が6億2千4百万円増加したことによるものであります。

また、固定資産は前連結会計年度末に比べ10億7千8百万円増加し、124億8千万円となりました。これは主として、リサーチセンター（研究開発施設）新棟建屋の工事代金の支払等により有形固定資産が6億7千7百万円増加したことによるものであります。

以上の結果、資産合計は前連結会計年度末から9億3千9百万円減少し、394億8千7百万円となりました。

②負債

当第1四半期連結会計期間末の負債につきましては、流動負債が前連結会計年度末に比べ16億1千8百万円減少し、118億3百万円となりました。これは主として支払手形及び買掛金が2億8百万円、未払法人税等が13億5千9百万円減少したことによるものであります。

また、固定負債は前連結会計年度末に比べ6千3百万円減少し、61億9千1百万円となりました。

以上の結果、負債合計は前連結会計年度末から16億8千1百万円減少し、179億9千5百万円となりました。

③純資産

当第1四半期連結会計期間末の純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ7億4千2百万円増加し、214億9千2百万円となりました。これは主として剰余金の配当を11億1千6百万円実施したこと、及び、親会社株主に帰属する四半期純利益を18億3千4百万円計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間におきましては、売上が堅調に推移するとともに、収益性の高い品目の寄与により売上総利益につきましても計画を上回る実績となりました。また、販売費及び一般管理費におきましては、開発関連費用や広告宣伝費をはじめとする経費予算の執行が遅れていることなどにより、営業利益以下の各段階利益につきましては計画を上回っておりますものの、当該費用につきましては第2四半期以降に執行される見通しであることから、平成29年4月28日に開示した連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

前連結会計年度末において連結子会社であったJUNKEN MEDICAL株式会社は、平成29年4月1日付で当社と合併し、解散いたしました。

3. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,148	3,252
受取手形及び売掛金	10,999	11,357
たな卸資産	10,272	10,896
繰延税金資産	695	412
その他	910	1,088
貸倒引当金	△0	—
流動資産合計	29,025	27,007
固定資産		
有形固定資産	7,234	7,911
無形固定資産	492	577
投資その他の資産		
その他	3,682	3,998
貸倒引当金	△7	△7
投資その他の資産合計	3,675	3,991
固定資産合計	11,401	12,480
資産合計	40,427	39,487
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,830	1,622
短期借入金	5,600	6,000
1年内返済予定の長期借入金	1,164	1,099
未払金	947	996
未払法人税等	1,883	524
賞与引当金	67	513
役員賞与引当金	33	6
その他	1,893	1,041
流動負債合計	13,421	11,803
固定負債		
長期借入金	3,339	3,311
長期末払金	—	190
役員退職慰労引当金	245	—
退職給付に係る負債	2,161	2,189
その他	510	500
固定負債合計	6,255	6,191
負債合計	19,676	17,995
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,115	2,115
資本剰余金	2,327	2,327
利益剰余金	18,729	19,447
自己株式	△2,301	△2,301
株主資本合計	20,869	21,588

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
その他の包括利益累計額		
其他有価証券評価差額金	△12	△10
為替換算調整勘定	32	43
退職給付に係る調整累計額	△140	△128
その他の包括利益累計額合計	△119	△95
純資産合計	20,750	21,492
負債純資産合計	40,427	39,487

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	8,905	10,228
売上原価	3,720	3,887
売上総利益	5,185	6,341
販売費及び一般管理費	3,440	3,721
営業利益	1,744	2,620
営業外収益		
受取利息	12	37
受取配当金	—	0
その他	56	18
営業外収益合計	68	55
営業外費用		
支払利息	12	10
為替差損	87	2
その他	1	36
営業外費用合計	102	48
経常利益	1,710	2,626
特別利益		
固定資産売却益	24	0
特別利益合計	24	0
特別損失		
固定資産除却損	1	0
投資有価証券売却損	—	3
特別損失合計	1	4
税金等調整前四半期純利益	1,733	2,622
法人税、住民税及び事業税	342	503
法人税等調整額	196	284
法人税等合計	538	788
四半期純利益	1,194	1,834
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,194	1,834

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	1,194	1,834
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2	1
為替換算調整勘定	18	10
退職給付に係る調整額	11	11
その他の包括利益合計	27	23
四半期包括利益	1,222	1,858
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,222	1,858

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

4. その他

生産、受注及び販売の状況

①生産実績

当第1四半期連結累計期間における生産実績を商品区分別に示すと次のとおりであり、著しい変動はありません。

(単位：百万円)

区分	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
	金額	金額
EP/アブレーションカテーテル類	1,029	1,087
外科関連	296	298
インターベンション	141	178
その他	5	7
合計	1,472	1,572

(注) 1 金額は製造原価によっております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 前連結会計年度末まで連結子会社でありましたJUNKEN MEDICAL株式会社を取り扱っていた血液浄化装置等は前連結会計年度まで「その他」の区分で集計しておりましたが、平成29年4月1日付で同社を当社が吸収合併したことにより、区分の見直しを行い、当連結会計年度より「外科関連」の区分で集計しております。これに伴い、比較可能性を確保する観点から、前第1四半期連結累計期間についても組み替えて記載しております。

②受注実績

当社グループの事業形態は、原則として受注残高が発生しないため、記載を省略しております。

③販売実績

当第1四半期連結累計期間における販売実績を商品区分別に示すと次のとおりであり、著しい変動はありません。

(単位：百万円)

区分	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
	金額	金額
リズムデバイス	1,564	1,821
EP/アブレーション	4,349	5,083
外科関連	2,327	2,601
インターベンション	664	721
合計	8,905	10,228

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 前連結会計年度末まで連結子会社でありましたJUNKEN MEDICAL株式会社を取り扱っていた血液浄化装置等は前連結会計年度まで「その他」の区分で集計しておりましたが、平成29年4月1日付で同社を当社が吸収合併したことにより、区分の見直しを行い、当連結会計年度より「外科関連」の区分で集計しております。これに伴い、比較可能性を確保する観点から、前第1四半期連結累計期間についても組み替えて記載しております。